日本言語学会第 163 回大会
プログラム

会　長　福井　直樹
大会運営委員長　江畑　冬生

期　日：2021 年 11 月 20 日（土）・21 日（日）

会　場：オンライン（Zoom および oVice）

E-mail： lsj@nacos.com（開催期間中を除く。開催中の連絡先は後日公開いたします。）

※オンライン大会登録受付システムにて，事前に参加登録と参加費の支払いが必要です。参加登録はここをクリックしてください。登録締切りは 11 月 14 日（日）です。登録を済ませた方にのみ，Zoom ミーティング ID と oVice URL をお知らせします。

※公開特別シンポジウムは，Zoom によるウェビナー（事前登録制）と YouTube におけるライブ配信（一般公開：URL は後日公開）の同時配信を行います。また大会後に録画を YouTube にて公開します。口頭発表およびワークショップの録画は，大会後 1 週間の間，参加登録をされた方にのみ公開します。

―― 前日（11 月 19 日）――

15:00–17:00	評議員会（評議員の方はご出席下さい。詳細は別便の案内をご参照下さい。）

―― 第 1 日（11 月 20 日）――

10:20–15:50	口頭発表（Zoom 詳細は 2－3 頁にあります。）
16:00–17:00	ポスター発表（oVice 詳細は 3 頁にあります。）
17:00–19:00	懇親会（oVice）

―― 第 2 日（11 月 21 日）――

9:40–11:40	ワークショップ（詳細は 4－5 頁にあります。）
12:20–13:00	会長挨拶，日本言語学会学会賞授賞式，会員総会
13:00–14:00	会長就任講演「日英語比較統辞論とパラメータの理論」　福井　直樹
14:15–17:15	公開特別シンポジウム「データベースをつくる・つかう：課題と展望」 ＜司会＞ 成田　広樹（東海大学），菅原　彩加（早稲田大学），北原　真冬（上智大学） ＜登壇者＞ 「容認性判断アーカイブの開発と応用」大関　洋平（東京大学） 　ディスカッサント：上山　あゆみ（九州大学） 「CHILDES データのつくり方・つかい方と自然発話研究の役割について」野村　潤（京都女子大学） 　ディスカッサント：杉崎　鉱司（関西学院大学） 「日本語諸方言コーパスの構築と活用 ―パラレル音声コーパスの可能性―」木部　暢子（国立国語研究所） 　ディスカッサント：小西　いずみ（東京大学）

＊本シンポジウムは、言語系学会連合・日本言語学会による共同開催です。

■口頭発表（11 月 20 日(土)　10:20−15:50）

	A 会場 司会：[1−3] 松本　亮，[4−5] 金　廷珉， [6−7] 若狭　基道	B 会場 司会：[1−3] 白井　聡子，[4−5] 松浦　年男， [6−7] 那須　昭夫
10:20−10:50	[A-1] 菱山　湧人 チュヴァシ語の後置詞 valli に先行する名詞・代名詞の格について	[B-1] 佐藤　暢治 保安語における自動詞主語の格標示
11:00−11:30	[A-2] Norikazu KOGURA，Arzhaana SYURYUN On the functions of evidential markers in Tuvan narrative texts	[B-2] 倉部　慶太 ジンポー語における文法化のクライン
11:40−12:10	[A-3] 山﨑　雅人 満洲語文語の具格接辞選択に伴う数的有界性	[B-3] 吉岡　乾 ドマーキ語の動詞による名詞修飾と「定動詞」
12:10−13:20	（休　憩）	（休　憩）
13:20−13:50	[A-4] 日高　晋介 ウズベク語における補助動詞 *tur-*「立つ」/*yot-*「横たわる」/*yur-*「動く」/*o‘tir-*「座る」の差異	[B-4] 中本　舜 「曲声調」とは何か：マサテク語アヤウトラ方言の曲声調から
14:00−14:30	[A-5] アクマタリエワ・ジャクシルク キルギス語の「始動」を表す補助動詞	[B-5] 北村　萌 ドマリ語エルサレム方言のセミスピーカーにおけるウムラウト
14:30−14:40	（休　憩）	（休　憩）
14:40−15:10	[A-6] ハカミー・フセイン・ターリク 日本語母語話者とアラビア語母語話者の謝罪の意識の対照比較 ―謝罪をする側と謝罪を受ける側の意識に焦点を当てて―	[B-6] 竹村　亜紀子，ペラール・トマ 共通日本語アクセントは二型アクセントか：情報理論からの観点
15:20−15:50	[A-7] 熊切　拓 現実性・非現実性の対立とアラビア語方言における二要素否定の発展	[B-7] 桑原　咲弥，松原　理佐 日本語複合語アクセントにおけるアクセント句のまとまりやすさと後部要素の語種の関係

	C 会場 司会：[1−3] 品川　大輔，[4−5] 柴﨑　礼士郎， [6−7] 松本　曜	D 会場 司会：[1−2] 衣畑　智秀，[4−5] 澤田　治， [6] 黒木　邦彦
10:20−10:50	[C-1] 諸隈　夕子 ケチュア語アヤクーチョ方言における 2 つの「来る」：動詞 *hamu* と方向接尾辞-*mu*	[D-1] 徐　子程 全称選言の尺度推意と分配推論
11:00−11:30	[C-2] 佐々木　充文 「自由語順」再考: ナワトル語とスペイン語の分析から	[D-2] 窪田　愛 「からといって」の出現環境とその意味的・語用的特徴
11:40−12:10	[C-3] 山部　順治 オリヤ語における、同一格制約の効力が｛ない｜ある｜強くある｝構文	
12:10−13:20	（休　憩）	（休　憩）
13:20−13:50	[C-4] 石川　さくら ベンガル語動詞 pôṛa（おちる）の多義構造の分析	[D-4] 水谷　謙太，田中　英理 「より」比較文再考
14:00−14:30	[C-5] 小田　希望 XX 構文の多義構造：名詞の場合	[D-5] 於保　淳 日本語の 2 種類の類別詞
14:30−14:40	（休　憩）	（休　憩）

14:40−15:10	[C-6] 王　鈺 分断・破壊事象を表す動詞「切る」のカテゴリー構造とその習得 —力動性のモデル・心理実験・コーパスデータに基づく検討—	[D-6] 下地　理則 北琉球沖縄語今帰仁謝名方言における除括性 (clusivity)
15:20−15:50	[C-7] 陳　奕廷 目的を伴う主体移動表現と動詞の負荷特性：関連事象アプローチの観点から	

	E 会場 司会：[1−3] 佐野　まさき，[4−5] 大滝　宏一，[6−7] 大島　デイヴィッド　義和	F 会場 司会：[3] 星　英仁，[4−5] 米山　聖子，[6−7] 浅原　正幸
10:20−10:50	[E-1] 中野　晃希 日本語埋め込み節の繋辞と項省略	
11:00−11:30	[E-2] 松本　大貴 間接疑問縮約は in-situ focus から派生する	
11:40−12:10	[E-3] 森山　倭成 日本語における分離 CP 構造と終助詞「わ」の補部選択	[F-3] 長谷川　拓也 分散形態論と V-N タイプ二字漢語動名詞
12:10−13:20	（休　憩）	（休　憩）
13:20−13:50	[E-4] 中村　直樹 英語の外置現象に関する一考察—非能格動詞の主語名詞句を中心に—	[F-4] Yusuke SUGAYA A visual-world eye-tracking study on the cognitive processing for demonstratives in Japanese
14:00−14:30	[E-5] 中島　基樹，野地　美幸 自他交替を許す英語非対格動詞の習得におけるインプット頻度の影響	[F-5] 松原　理佐 文処理における音読み語と訓読み語での音韻プライミング効果の非対称性
14:30−14:40	（休　憩）	（休　憩）
14:40−15:10	[E-6] 平田　未季，趙　文騰，デ・オリベイラ・パイバ・ドウグラス・エンリケ なぜ指示詞はつねに複数の代替形と統語範疇を有するのか	[F-6] 祐伯　敦史，中野　陽子 キュー呼び出しモデルにおける干渉効果とキューの卓立性について
15:20−15:50	[E-7] 島　健太 中国語の連合複数表現 “PN-men” と “PN ta-men” の差異についてのコーパス調査	[F-7] 山田　敏幸 なぜ日本人英語学習者は「3 単現-*s*」が苦手なのか：「文法性の錯覚」からの検討

■ポスター発表（11 月 20 日(土)　16:00–17:00）

16:00–17:00	[P-1] Maelys SALINGRE The structure of Japanese reduplicated compounds: insights from apophony
	[P-2] 山越　康裕 ブリヤート語分詞の定動詞化は一方向の変化か：主節述語における定動詞・分詞の「中和」
	[P-3] 宮崎　真奈，折田　奈甫，高橋　大厚 日本語の一人称空目的語の生起制限について —コーパスを用いた定量的分析—
	[P-4] 伊藤　さとみ，王　芸嬛 中国語の条件疑問文における問題払拭効果について
	[P-5] Kaori MIURA Japanese psychological adverbs in the scope-based theory of adverb licensing

■ワークショップ（11 月 21 日(日)　9:40–11:40）

9:40–11:40	[W-1] 評価的意味と文法現象 企画者・司会者: 堤　良一	
	[W-1-1] 反復的観察と評価的意味	大江　元貴
	[W-1-2] 複数性と評価的意味	岩男　考哲
	[W-1-3] 確定性・指示性と評価的意味	堤　良一
	[W-1-4] 非明言と評価的意味	西村　英希
9:40–11:40	[W-2] 最後のアナログ言語調査資料：危機に瀕した言語データの発掘と救出 司会者: 加藤　重広，中川　裕　コメンテーター: 塩原　朝子，米田　信子	
	[W-2-1] なぜいま言語データの救出が必要か	加藤　重広
	[W-2-2] デジタル化とアーカイブ化の実相：コイサンと琉球の事例	加藤　幹治
	[W-2-3] データのアーカイブからできること：発掘的研究の可能性	木村　公彦
	[W-2-4] 土田データ：台湾原住民危機言語・方言のデータ	塩原　朝子
	[W-2-5] 湯川データ：120 を超えるバントゥ諸語の並行的データ	米田　信子
	[W-2-6] 菅原データ：初のコイサン自然会話コーパス	中川　裕 加藤　幹治 木村　公彦
9:40–11:40	[W-3] 日本諸語の形成に関する総合的アプローチ —大陸倭語・八丈型基層語・アクセントの分布と機能の 3 つの観点から— 企画者・司会者: 風間　伸次郎　コメンテーター: 斎藤　成也	
	[W-3-1] 朝鮮半島における言語接触と大陸倭語	伊藤　英人
	[W-3-2] 八丈型基層言語と日本語の重層性	風間　伸次郎
	[W-3-3] アクセントの分布と機能からみた日本諸語の歴史	平子　達也
9:40–11:40	[W-4] 項の具現化と意味の所在：周縁的構文への多角的アプローチ 企画者・司会者: 于　一楽	
	[W-4-1] 日本語における統語的名詞化と項構造に関する一考察	臼杵　岳
	[W-4-2] 英語における非典型的な項の具現化 —場所主語構文を中心に—	工藤　和也
	[W-4-3] 中国語における非典型的主語構文 —「マラソンが 20km を走った」はなぜ言えるのか—	于　一楽
	[W-4-4] ハンガリー語における非典型的な項の具現化 —「痺れ」はどこからやってくるのか—	江口　清子
9:40–11:40	[W-5] アルタイ型言語における節連結の意味とその形式的特徴 企画者：蔡　熙鏡　司会者：山田　洋平　コメンテーター：吉岡　乾	
	[W-5-1] モンゴル語の動詞接辞 *-xAAr*	山田　洋平
	[W-5-2] ウズベク語における時間的連続を表す節連結について	日髙　晋介
	[W-5-3] ニヴフ語の節連結 —意味と形式—	蔡　熙鏡

9:40–11:40	[W-6] 日琉諸語の疑問・不定表現をめぐる韻律的現象：類型論的枠組みの提案と通時的考察 企画者：佐藤　久美子　司会者：青井　隼人　コメンテーター：五十嵐　陽介	
	[W-6-1] 日琉諸語の疑問・不定表現における韻律的現象の類型化の提案	佐藤　久美子
	[W-6-2] 南琉球宮古語の疑問・不定表現におけるアクセントの交替	セリック・ケナン
	[W-6-3] 疑問・不定表現における韻律的現象の通時的考察	中澤　光平

お知らせ

◆Zoom/oVice へのアクセスについて
接続に必要な機器・環境（ウェブカメラ，パソコン/タブレット，マイク/イヤホン，インターネット接続）は，参加者各自でご準備ください。

◆oVice（オヴィス）体験会
ポスター発表，休憩室，懇親会等で使用する oVice の体験会を大会三日前より常時実施します。アカウント不要で，ブラウザ（Chrome 推奨）があれば使うことができます。ぜひ大会前にお試しください。

◆大会参加費
大会に参加するには，事前の参加登録が必要です。参加費は，一般会員 2,000 円，学生会員 1,000 円，一般非会員 3,000 円，学生非会員 2,000 円です。下記リンクから，オンライン登録システムにアクセスしてください。
。

https://orsam.jp/lsj163/login

登録締め切りは，11 月 14 日（日）です。お早めに登録ください。事前登録と参加費の支払いを済ませた方に，学会 Zoom へのアクセス方法をお送りします。送信は学会の三日前を予定しております。

◆大会参加証
大会参加証明の必要な方は，会期中に休憩室（oVice）内の参加証リンクにアクセスして取得してください。

◆予稿集
予稿集は大会の 1 週間前より学会ホームページから電子版予稿集（PDF ファイル）がダウンロードできるようになりますので，事前にダウンロードをお済ませください。紙媒体での予稿集頒布は行っておりません。

◆手話通訳などについて
手話通訳や字幕表示の支援を必要とされる方は，10 月 15 日（金）までに学会事務支局（lsj@nacos.com）にお申し出ください。

◆会員懇親会
会員懇親会は，oVice で開催します（ポスター発表と同じ会場です）。会場へのリンクは，事前登録と参加費の支払いを済ませた方向けのプログラムに掲載します。会費は，無料です。

◆書籍展示
書籍展示は，ウェブ上になります。各書店の特設サイト等を学会ホームページに掲載します。

◆大会予稿集，『言語研究』のバックナンバー
大会予稿集および『言語研究』のバックナンバーは郵送での注文を受け付けております。購入をご希望の方は，在庫状況を学会ホームページでご確認の上，学会事務支局までお申し込み下さい。

事務局からのお知らせ

日本言語学会では，2019 年度より，言語学の研究・教育および学会運営にあたって依拠すべき倫理上の基本原則と理念を「日本言語学会倫理綱領」（以後「倫理綱領」）として定めました。制定に至った背景の 1 つに，2018 年 8 月に開催された「夏期講座 2018」で発生したハラスメント事件があります。学会として，このような事態を二度と起こしてはならないという強い決意のもと，倫理綱領制定のための部会で原案を作成し，常任委員会，そして評議員会で議論の上，制定した次第です。倫理綱領は研究大会を含む学会活動すべてに関わるものです。日本言語学会の会員であるかどうかに関わらず，倫理綱領を遵守していただくことが本大会参加の条件となることを認識いただいた上で，大会に参加いただきますよう，よろしくお願い致します。

倫理綱領の内容については，日本言語学会ウェブサイトで確認してください。

http://www.ls-japan.org/modules/documents/rules/15.pdf

次回大会予告（2022 年春季大会：第 164 回大会）

場　所：オンライン
日　程：2022 年 6 月 18 日（土)・19 日（日)
　　　　公開シンポジウム，口頭発表，ポスター発表，ワークショップ
研究発表募集：**学会ホームページから発表申し込みができます。**
　・発表応募締め切り　2022 年 3 月 20 日(日)（必着）
　・採否通知　2022 年 4 月中旬

問い合わせ先
日本言語学会事務支局　〒602−8048　京都市上京区下立売通小川東入
Tel.　(075) 415−3661，Fax.　(075) 415−3662，E-mail: lsj@nacos.com